

関西学院大学大学院 修士学位論文 審査基準等

研究科名	内容
神学研究科	<p>以下の基準に従って審査する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 問題意識が明瞭で、論文の課題設定が適切であるか。 主題に即した先行研究が十分に考慮されているか。 明示された方法論によって一貫した論述がなされているか。 主題に関連する文献・資料の分析・解釈が適切であるか。 論文構成・論理展開に説得性があり、文章表現が適切であるか。 引用等が適切であり、学術論文としての体裁が整っているか。 学術的に創意工夫がなされているか。 <p>なお、修士論文の成績評価はS・A・B・C・Fをもってあらわし、S・A・B・Cを合格とする。また、特に優秀な論文については優秀賞「アウターブリッヂ賞」を授与する。</p>
文学研究科	<p>(1) 研究テーマの適切性 研究目的が明確で、課題設定が適切になされていること。</p> <p>(2) 情報収集の度合い 当該テーマに関する先行研究についての十分な知見を有し、立論に必要なデータや資料の収集が適切に行われていること。</p> <p>(3) 研究方法の適切性 研究の目的を達成するためにとられた方法が、データ、資料、作品、例文などの処理・分析・解釈の仕方も含めて、適切かつ主体的に行われていること。先行研究に対峙し得る 発想や着眼点があり、それらが一定の説得力を有していること。</p> <p>(4) 論旨の妥当性 全体の構成も含めて論旨の進め方が一貫しており、当初設定した課題に対応した明確かつオリジナルな結論が提示されていること。</p> <p>(5) 論文作成能力 文章全体が確かな表現力によって支えられており、要旨・目次・章立て・引用・注・図版等に関しての体裁が整っていること。</p> <p>※専攻領域あるいは論文テーマの特徴から判断して、さらに以下の項目も修士論文の審査基準として付加することがある。</p> <p>倫理的配慮 研究計画の立案および遂行、研究成果の発表ならびにデータの保管に関して、適切な倫理的配慮がなされていること。 また、学内の倫理規定や研究テーマに関連する学会や団体の倫理基準等を遵守していること。</p>
社会学研究科	<p>修士学位論文の審査にあたって、下記の諸点を考慮しながら評価を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> テーマの明確性 先行研究への批評性 論理展開の緻密性 分析手法の明確性 実証的な手続きの妥当性 学問的な独創性 社会問題解決への実践的志向性 研究の将来性
法学研究科	<p>(1) 審査基準 ①修士論文審査基準 後期課程に進学し、研究者を目指す者として期待される研究成果を含むと評価できること。 ②リサーチペーパー（特定課題研究成果）審査基準 高度な専門知識を持って社会に貢献する者として期待される能力をゆうしていると評価できること。</p> <p>(2) 評価項目 ①修士論文評価項目 研究テーマの独創性、問題意識の明確さ、調査方法等の妥当性、国内外の先行研究との十分な関連付け、論文構成・論理展開・文章表現の妥当性、裁判例その他の資料分析の適切性、引用文献の適切性等 ②リサーチペーパー（特定課題研究成果）評価項目 研究テーマの独創性、各プログラムに応じた課題設定の意義、問題意識の明確さ、調査方法の妥当性、国内外の実務界の抱える問題や先行研究との十分な関連付け、論文構成・論理展開・文章表現の妥当性、裁判例その他の資料分析の適切性、引用文献の適切性等</p>
経済学研究科	<p>修士論文については、以下の①～⑤に示す、すべての要件を満たしていることを基準に評価をおこなう。</p> <ol style="list-style-type: none"> テーマについて、学術的、社会的意義と貢献を意識し、明確な問題意識のもとに、設定がなされていること。 論文構成が的確で、明確な結論を導出していること。 当該分野での広範かつ高い水準の専門知識に基づくものであること。 研究上、適切な分析手法が用いられていること。 テーマ設定、論旨、分析手法など全体を通して独創性を有するものであること。
商学研究科	<p>修士論文の審査にあたって、次の点を考慮しながら評価を行う。なお、各分野における研究アプローチや特殊性についても考慮する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 問題意識が明確で、課題設定が適切であること。 先行研究が適切に検討・吟味されていること。 事実調査・文献資料などの探索が十分にできていること。 分析の切り口が明確で、論理展開が一貫していること。 調査分析の内容の記述や展開が説得的であること。 分析内容にオリジナリティがあること。 引用等が適切になされ、論文としての体裁が整っていること。

	<p>(数理科学専攻)</p> <p>修士論文は、申請者が主体的に取り組んだ研究成果で、数理科学領域において基礎理論を修得していることを示すものでなければならない。修士論文は以下の項目に基づき審査される。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究課題の背景と意義が十分に記されている。 ・研究内容について数理科学的に意義がある。 ・適切な文献が引用されている。
	<p>(物理・宇宙物理専攻)</p> <p>修士論文は申請者が取り組んだ研究の成果で、かつ高い独創性を有していなければならない。修士論文は以下の項目に基づき審査される。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究課題の背景と意義が十分に記されている。 ・論理的思考のもとに熟考された研究計画、および研究の方法が具体的に記されている。 ・研究で得られた結果の整理・解析が適切に行われており、それらに対して妥当な物理的解釈がなされている。 ・論文、参考文献が適切に引用されている。 ・修士論文には学会等で発表された研究成果（修了期間内に発表予定のものも含む）、あるいはそれに準ずる内容が盛り込まれていることが望ましい。
	<p>(化学専攻)</p> <p>修士論文は化学における専門性の高い課題の遂行に必要な基礎概念の理解と基本的な手法の修得を実証する考察を含む内容を有していなければならない。修士論文は以下の項目に基づき審査される。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究課題の目的と背景が明確に示されている。 ・研究計画と研究方法が具体的に示されている。 ・研究結果が明確に示され、その解析と考察が適切に行われている。 ・先行研究を把握し、関連する論文が適切に引用されている。 ・学会等で発表した研究内容が盛り込まれていることが望ましい。
	<p>(先進エネルギー工学専攻)</p> <p>修士論文は申請者が取り組んだ研究の成果で、かつ高い独創性を有していなければならない。修士論文は以下の項目に基づき審査される。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究課題の背景と意義が十分に記述されている。 ・論理的思考のもとに熟考された研究計画、および研究の方法が具体的に記されている。 ・研究で得られた結果の整理・解析が適切に行われており、それらに対して妥当な物理的解釈がなされている。 ・論文、参考文献が適切に引用されている。 ・修士論文には学会等で発表された研究成果（修了期間内に発表予定のものも含む）、あるいはそれに準ずる内容が盛り込まれていることが望ましい。
	<p>(情報工学専攻／知能・機械工学専攻)</p> <p>修士論文は申請者が取り組んだ研究成果で、高い独創性を有していなければならない。修士論文は以下の項目に基づき審査される。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究の背景と意義が適切に論文を引用しながら述べられている。 ・問題設定と解決方法の選択が適切になされ、結果と考察が根拠に基づいて論理的に記述されている。 ・学会等で発表された研究成果あるいはそれに準ずる内容を含んでいる。
理工学研究科	<p>(生物科学専攻)</p> <p>修士論文は申請者が取り組んだ研究の成果で、高い独創性を有していなければならない。修士論文は以下の項目に基づき審査される。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究の背景と意義が適切に論文を引用しながら述べられている。 ・研究方法が具体的に記されている。 ・実験結果のデータ整理と解析が論理的になされている。 ・中間審査会で指摘された項目を考慮し、執筆されている。 ・修士論文に含まれる研究成果が学会等で発表されている（修了期間内に発表予定のものを含む）。
	<p>(生命医科学専攻)</p> <p>修士論文は申請者が取り組んだ研究の成果で、高い独創性を有していなければならない。修士論文は以下の項目に基づき審査される。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究の背景と意義が適切に論文を引用しながら述べられている。 ・研究方法が具体的に記されている。 ・実験結果のデータ整理と解析が論理的になされている。 ・中間審査会で指摘された項目を考慮し、執筆されている。 ・修士論文に含まれる研究成果が学会等で発表されている（修了期間内に発表予定のものを含む）。
	<p>(環境応用化学専攻)</p> <p>修士論文は環境・応用化学分野において申請者が取り組んだ研究の成果で、専門性の高い研究内容を有していなければならない。修士論文は以下の項目に基づき審査される。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究の目的、背景が明確に示されている。 ・研究方法が具体的に示されている。 ・研究によって得られた結果が明示され、その解析と考察が適切に行われている。 ・先行研究を把握し、参考文献として適切に引用されている。 ・学会等で発表した研究成果あるいはそれに準ずる内容が含まれていることが望ましい。
	<p>(建築学専攻)</p> <p>修士学位申請論文（以下、修士論文）又は特定の課題についての研究成果である修士設計（以下、修士設計）は、申請者が主体的に取り組んだ研究成果で、専門性の高い研究内容を有していなければならない。</p> <p>修士論文は以下の項目に基づき審査される。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究の目的、背景が明確に示されている。 ・研究方法が具体的に示されている。 ・研究によって得られた結果が明確に示され、その分析と考察が適切に行われている。 ・既往研究を把握し、参考文献として適切に引用されている。 ・学会等で発表した研究成果あるいはそれに準ずる内容が含まれていることが望ましい。 <p>修士設計は以下の項目に基づき審査される。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テーマ設定が妥当であること。 ・作品に独創性があること。 ・高い技術力が確認できること。 ・高いデザイン力が表現されていること。

<p>総合政策研究科</p>	<p>(総合政策専攻)</p> <p>テーマの設定：テーマ設定が妥当かつ明確であること 論理性・構成：論理が明晰に展開され、構成が体系立てられていること 表現・体裁：引用、図、表などの記述が適切に処理されていること 先行研究：先行研究に関する必要かつ十分な整理がなされていること 研究・分析手法：テーマと整合性のある研究・分析手法を採用しており、資料の取扱いや分析結果の解釈が妥当かつ説得的であること 独創性：学問的な独創性を有していること 志向性：研究を社会で活かすための志向性が示されていること ※なお、論文に加え、映像、ソフトウェア、建築設計などの作品制作について審査を受ける場合は、テーマ設定の妥当性、作品の独創性、技術力、デザイン力等を別途評価する。</p> <p>(国連システム政策専攻)</p> <p>テーマの設定：グローバル課題に関連しており、問題意識やテーマ設定の意義が明確であること。 論理性：論旨の展開が明快で一貫性があること。 フォーマット：指定されたフォーマットに従い、図・表・引用などの記述が適切に処理されていること。 文献研究：関連する先行研究・報告書・その他資料に基づいていること。 分析手法：テーマに整合する研究・分析手法が適切に採用されていること。 志向性：グローバル課題に関して実社会での取り組みを踏まえ、その解決への志向性が示されていること。 言語：適切な英語表現を用いて書かれていること。</p>
<p>人間福祉研究科</p>	<p>1. 研究テーマの明確性 研究テーマが明確で、研究目的にかかる意義や必要性が述べられている。 2. 研究方法の妥当性（改行） 研究目的に照らして研究・分析の方法が適切である。 3. 先行研究との関連性 関連する研究を渉猟し理解した上で、その到達点が踏まえられている。 4. 論理の一貫性 分析、結果、考察に至る論理展開に整合性、一貫性がある。 5. 独創性 考察・結論において学術的に独創性・重要性がある。</p>
<p>教育学研究科</p>	<p>①研究テーマの適切性：研究目的が明確で、課題設定が適切になされていること。 ②情報収集の度合い：当該テーマに関する先行研究についての十分な知見を有し、立論に必要なデータや資料の収集が適切に行われていること。 ③研究方法の妥当性：研究の目的を達成するためにとられた方法が、データ、資料などの処理・分析・解釈の仕方も含めて、適切かつ主体的に行われていること。先行研究に対峙し得る発想や着眼点があり、それらが一定の説得力を有していること。 ④論理の一貫性：全体の構成も含めて論理展開に整合性、一貫性があること。 ⑤独創性：当初設定した課題に対応した明確かつ独創的な結論が提示されていること。 ⑥論文作成能力：文章全体が確かな表現力によって支えられており、要旨・目次・章立て・引用・注・図版等に関して学術論文としての体裁が整っていること。 ⑦研究計画の立案および遂行、研究成果の発表ならびにデータの保管に関して、適切な倫理的配慮がなされていること。また、学内の倫理規程や研究テーマに関連する学会や団体の倫理基準等を遵守していること。</p>
<p>国際学研究科</p>	<p>修士論文の審査は、以下のような評価項目に基づいて総合的に行われる。</p> <p>a) テーマは研究科のミッションに照らして適切か。 b) 問題意識は明確で、かつ社会的意義を持っているか。 c) 文章表現・図表・注釈・引用・参考文献の扱いなど、学術論文としての体裁は整っているか。 d) 関連分野の先行研究を十分かつ適切に踏まえているか。 e) 分析手法は明確、かつテーマに相応しいか。 f) 論理展開、論文の構成、全体のまとめり、などは適切か。 g) 既存研究に加える新たな事実発見・資料発掘・独自の知見などがあるか。</p>
<p>言語コミュニケーション文化研究科</p>	<p>1. 研究課題について ・学問的な普遍性や一般化の可能性を重視した研究課題となっているか。 ・研究課題を明確に認識し、それが論文に反映されているか。</p> <p>2. 構成・表現について ・章立て等の論文構成は適切か。 ・論文の形式は一定のスタイルに則っているか。（MLA、APA等） ・論文で使用されている表現は適切か。 ・引用文献の記述が適切にされているか。</p> <p>3. 議論・結論について ・先行研究を正確に読み、適切に利用しているか。 ・実験・調査結果について論理的に議論を展開しているか。 ・議論の質はどうか。 ・論旨が明確で、一貫性があるか。 ・適度な独創性はあるか。</p> <p>4. 調査・実験について ・研究課題を説明するための適切な実験・調査計画が立てられているか。 ・実験・調査の手順および手法は適切か。 ・結果について、統計的な分析、記述ができるか。 ・結果について論理的に妥当な解釈ができるか。</p>